

教 育 委 員 会 定 例 会 議 事 録

平成28年1月14日 午前9時30分 開議

出席委員

教 育 長	高 本 訓 久
委 員	林 正 美
委 員	菅 沼 由貴子
委 員	渡 辺 時 行
委 員	戸 苺 恵理子

説明のための出席者

教育部長	柴 谷 好 輝
教育部次長	赤 谷 雄 助
教育部次長兼学校教育課長	松 平 貴 圭
教育部次長兼中央図書館長	中 森 利 仁
庶務課長	鈴 木 敏 彰
学校教育課主幹	山 田 佳 宏
生涯学習課長	前 田 清 彦
スポーツ課長	中 村 幸 夫
学校給食課長	大 林 充 始
中央図書館主幹	尾 崎 浩 司

教育長が指定した事務局職員

主 事	中 尾 成 利
-----	---------

議事日程

- 第1 議事録署名委員の指名
- 第2 第1号議案 教職員の任用について（非公開）
- 第3 その他報告 第3次豊川市生涯学習推進計画（案）の策定について

「高本教育長」 定刻になりましたので、ただいまから教育委員会を開会し、直ちに会議を開きます。始めに日程第1、議事録署名委員の指名を行います。本日の議事録署名委員は、教育長において、林・戸苺両委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。

次に日程第2、第1号議案「教職員の任用について」は職員の人事に関する案件ですので、議事を非公開とし、会議内容の議事を別に記録することとしてよろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

異議なしと認め、本案は非公開とします。それでは、日程第2、第1号議案「教職員の任用について」を議題といたします。事務局から提案内容の説明をお願いします。
「松平教育部次長」 日程第2、第1号議案「教職員の任用について」を資料に基づいて説明。

(以下、議事内容は個人情報に関わるため議事を非公開)

「高本教育長」 次に日程第3、その他報告「第3次豊川市生涯学習推進計画(案)の策定について」を議題といたします。それでは事務局から提案事由の説明をお願いします。

「前田生涯学習課長」 それでは、第3次豊川市生涯学習推進計画(案)について、ご説明いたします。

この計画案につきましては、本日の定例会でご説明させていただいた後、1月22日に開催が予定されております、市議会の市民文教委員会でご審議いただきます。その後、パブリックコメントを実施いたしまして、第3次推進計画として策定していきたいと考えております。

なお、パブリックコメントにつきましては、平成28年1月27日から2月25日まで、実施する予定であります。

今回の資料は2種類ありまして、資料1は「第3次豊川市生涯学習推進計画(案)概要版」、資料2は「第3次豊川市生涯学習推進計画(案)」の冊子でございます。

それでは、資料に基づいてご説明いたします。

(資料に基づき、第3次豊川市生涯学習推進計画(案)の策定理由、具体的内容、計画の体系、計画の推進のための方策等を説明)

「高本教育長」 ありがとうございます。非常に沢山の資料でございますが、その中からポイントを絞ってご説明をいただきました。生涯学習推進計画でございますので、豊川市民の生涯に渡って、子どもから働く若者、それからシニア世代、高齢者、そして障がい者まで含めて、多くの市民の方々の生涯学習を進めていく計画ということでございます。ただいまの説明にもありましたように、生涯学習課だけではなくて教育委員会の他課とも連携しておりますし、市役所の子ども課、保健センターなどの多くの課がかかわって生涯学習推進計画が出来上がってまいります。

それから、基本的には第2次生涯学習推進計画を踏襲するかたちで、更にそれを充実させていく方向で計画を策定したという事でございます。先ほどの説明にもありましたように、様々な事業が載っているわけでありまして、具体的な内容については

まだまだこれからという部分もあるかと思います。推進計画でありますので、豊川市の生涯学習の方向性として、このような計画・事業を考えていますという説明でございました。

また、計画期間はこの先10年間でありますので、28年度から37年度までの長い計画となってくるわけですが、基本的には1年ごとに見直しを図っていきたいという説明がありました。

委員の皆様からただいまの報告について、いろいろな視点から、ご意見、ご質疑がありましたらお願いします。

「林委員」 内容的にすばらしいと思いますが、気になる所がいくつかありましたので、発言させていただきます。

まず、概要版の中の「理念・目標・方向性」、この言葉はすばらしいと思いますが、方向性の中に「学びを育むきっかけづくり」という言葉が使っておりますよね。「きっかけ」というのはあくまで糸口ですが、「いつでも、誰でも、どこでも学べる」が生涯学習の精神だと思いますので、そこから考えますと「きっかけづくり」という言葉の表現が非常に弱く感じます。むしろ、「学びを育む環境づくり」と言ったほうが、内容的に良いのではないかと感じました。

もう1つは、計画の大綱にあります「学校・家庭・地域との連携強化」ですが、これは非常に大事なことであると思います。ただ、「学校・家庭・地域」という言葉は学校を中心とした地域連携として、全国的にも定着している言葉だと思いますが、生涯学習の精神としては、「家庭・地域・学校」、「地域・家庭・学校」と表記した方が、見る人に訴える力や豊川市の独自性があると思いますが、いかがでしょうか。

「高本教育長」 ありがとうございます。まずは2点、ご意見をいただきました。

2点目の言葉の並び方については、検討していただくことになるかと思いますが、1点目の「きっかけ」という言葉のところについては、この言葉を使うことになった背景や思いのようなものがございましたら、ご説明いただきたいと思います。

「前田生涯学習課長」 ご意見ありがとうございます。「きっかけ」という言葉ですが、林委員が言われるように、「環境づくり」といった言葉のほうが相対的に見て適切ではないかという意見もございまして、「学びを支える環境づくり」という表現で検討もしておりました。

「きっかけ」に決定した理由ですが、市民アンケートを行ったところ、生涯学習は大切とお答えになる方は多いのですが、実際に生涯学習を行っている人は、特に勤労者世代を中心に少ないという結果になりました。そのような結果から、社会教育審議会の中で、きっかけさえあれば、多くの方が生涯学習を始められるのではないかという結論に至りまして、「学びを育むきっかけづくり」という言葉を使用しております。

「高本教育長」 ありがとうございます。「環境づくり」という言葉も検討されていたけれども、ただいまの説明のように、アンケートの結果ですとか、あるいは、社会教育審議会の中で検討されて、「きっかけづくり」という言葉に変わったということ

です。また、今後も言葉は変更になる可能性はあるかと思しますので、林委員のご意見も是非参考にさせていただきたいと思ひます。

私の思いなのですが、計画の体系では「機会」の分類に属する言葉ですので、「学びの機会づくり」という言葉でも良いのではと思ひました。

その他に、ご意見でも結構ですので、なにかありますか。

「菅沼委員」 少し細かい質問になりますが、この計画の要綱の案ですが、1番最後の目標指数の7、下から2番目の「学校の日参加者数」についてお聞きします。この数値というのは、保護者に加え、地域の方を含んだ人数でしょうか。

「松平教育部次長」 参加者数につきましては、保護者と地域の方など、全ての方を含んだ数になっております。

「菅沼委員」 学校の日参加者数をこの目標指数に選んだということは、地域の方との連携や、青少年健全育成に関連していると思ひますが、おそらく、ここに記載された参加者数の中では保護者が大多数を占めると思ひます。先ほど林委員が言われたように、生涯学習の推進計画ですが、並び順で学校が一番前にきている、強調されているといった感じがしますので、「学校の日を生涯学習としても応援しているよ」という指数を載せるのであれば、なにか他の指数が良いのではないかと感じました。

「高本教育長」 まず、この目標指数に学校の日参加者数を使用すべきかどうか検討が必要ということと、もし、そのまま参加者数を使用するのであれば、保護者の数を除いた数値を目標にしたらどうか、というご意見でよろしいでしょうか。

「菅沼委員」 そうですね。ただ、保護者の数を除いてしまうと、人数が凄く少なくなってしまうので、指数が小さくなってしまいますかね。計画期間の10年間に地域の方々をたくさん呼び出せるようになったら良いと思ひます。

「戸荻委員」 小学校に一般の方が入るのは、以前大きな事件が起きたことから、一時、すごく難しい時期がありましたよね。その時、私の子どもが通っていた学校でもそうでしたが、保護者証というものを配って、学校の敷地内に入るには必ず証明書の確認が必要といった体制を取った時期がしばらくの間あったかと思ひます。

そういった時期を経て、地域の方々にまた是非学校に来てくださいと言うのは、とても難しいような気がします。いろいろな人が学校に入ることで、もし何か事件が発生したら、保護者は心配します。近所の方で顔見知りの方は安心だと思うのですが、知らない方だと、突然教室で何か振り回されたりしたらどうしようと心配になりますので、その意味では、地域の方々を学校に呼ぶということは、考えなければいけないことが沢山あると思ひます。事件は忘れた頃にまた突然起こるということがあると思ひるので、学校を開放的にして、沢山の人を学校へ呼ぶことで、地域と連携や理解を求めるとすることも分かるのですが、学校での子どもの安全性などを考えた時に、安全を確保しつつ、どうやって多くの地域の方を学校に呼び込めるかということは、一つの大きな課題かと思ひます。

「高本教育長」 大事なご意見だと思ひます。外国のように、学校に入ってきてとんで

もない事件を起こすということはめったにないかもしれませんが、それでも、過去に実際に起こったことですから。

地域の方を学校にお招きするということと、戸蒞委員が言われるように、学校の子どもたちの安全を守るというところで、なにか教育委員会として考えはありますか。

「松平教育部次長」 ただいま、戸蒞委員が言われたように、外部の方が学校に入られる場合には、保護者については事前に許可証をお渡ししたり、学校の玄関で許可証をお渡ししたりする学校もあります。やはり昔と違い、なかなか地域の方が学校に入りづらくなっている事実はあるかと思えます。一つは安全面というところ、もう一つは、今は門が閉められてしまう、あるいは、学校がフェンスで囲まれているといったことで、少し敷居が高くなっている部分もあるかと思えます。また、学校へ来られる場合には事前にご連絡下さい、というお願いも学校の敷居を高くしていて、なかなか来ていただけないという要因が多々あるかと思えます。

これらの課題に対しては、例えば私の前任校の事例になりますが、学校の中の子どもたちが地域に出て学ぶ事、あるいは、地域の方を招いて学ぶ事を増やしましょうということで、そのような取り組みを行ってまいりました。そこで関わった方々が、「これからは学校の日に行きますね」と言っていただけたり、「学校の日に発表を行いますから来てくださいね」とお誘いの手紙をお送りしたり、そのような取り組みを進めてきたこともあります。基本的には、学校の日などのイベントに来ていただく際には、受付で必ずお名前をご記入いただいているのですが、それでは、普段はどのようにしたら良いかということが、各学校で懸念している所だと思えます。

「高本教育長」 保護者を含めた地域の方々に学校に来ていただきたいと考えているけれども、安全面で心配な部分もあるので、常にではなく、せめて学校の日ぐらいは地域の方々に開放して、多くの方に来ていただくような方向へ進めていきたいという考えが、根底にあるのかもしれませんが。学校によっては、受付名簿ですとか、保護者証なども発行しているところもありますし、PTAの方々が授業参観だけではなくて、いわゆる、防犯パトロールも兼ねて学校の巡視をしていただくようなシステムをとっている学校もあります。いろいろな方が学校へ入っていただくことで心配な事もありますが、また一方では、多くの方によって学校が守られるという部分もありますので、その辺のバランスがうまく取れたら良いのかなと思えます。

その他にご意見がありましたらお願いします。

「林委員」 よろしいでしょうか。指標について私が一番気になったのが、子ども・若者からの悩みに関する相談件数なのですが、相談件数が増えることを目標指標とされています。ただ、相談件数が増えるということは、果たして目標として良いことなのかと疑問に思います。本来であれば、相談件数は減らしていかなければいけない事ですので、この目標指標には私は少し抵抗があります。

「菅沼委員」 相談の結果、その方の問題が解決された件数を掲げるのであれば、良いけれどもということですよ。

「林委員」 それであれば、目標指標として納得できますよね。

「菅沼委員」 そうですね。確かに、今までのように今後の10年間で、相談件数は増えていくかもしれないけれども、10年の間に相談の内容が充実して問題が解決していくことで、結果的に相談件数が減っていく事が良いことかなという感じがします。

「高本教育長」 林委員、菅沼委員からのご意見ですが、確かに現状の相談件数140件が、平成36年では倍になると想定している訳ですので、これをどのように評価するかですね。生涯学習課長も随分悩まれたところでしょうか。

「前田生涯学習課長」 おっしゃるとおり、本来であれば相談件数ではなく、どのような支援を行って、どのように解決されたかという数値を計上するべきかもしれません。

ただ、相談を継続していく中でどこまで行ったら本当に解決できたかという判断は、このような相談活動においては難しい点がございします。例えば、就職することが出来たとしても、すぐに辞めてしまったなど、いろいろな状況がございします。

この計画に相談件数を数値指標としたのは、例えば、「ゆずりは」の相談が年々増えていますが、それは行政に対する需要が増えているということでございしますので、受け皿である相談体制を整える必要があると判断いたしまして、相談件数を増やすことを目標指標といたしました。委員の皆さんが言われるように、相談が必要な方を減らす事が重要ではございしますが、多くの方の相談に対応できる体制が必要ということで、ご理解いただきたいと思ひます。

「戸荻委員」 相談件数が増えているということは、市民の方々に教育委員会の事業が認知され始めているということもあるかと思ひますね。

「高本教育長」 どこに相談していいか分からない方や、相談出来なくて困っている方が、安心して相談できるようになったということですね。

「菅沼委員」 スペースの問題もあって、概要を少し見ただけでは、目標指標の意図するところを、すぐに理解することは難しいかもしれませんね。

「高本教育長」 関連してでも結構ですし、細かな所でもご指摘いただければ、今後、市議会への報告、それから一般市民の方からのパブリックコメントを経て、最終的に3月を目処に完成していくということですので、教育委員の方々からご意見、ご指摘を、この機会にいただけることはありがたいと思ひます。

他よろしいでしょうか、戸荻委員どうぞ。

「戸荻委員」 この目標指標の表には、現状値、5年後、10年後の目標値が書いてあるのですが、過去の実績数値が分かりません。5年、10年前の数値や状況がこうであったから、目標値をこのように定めるといふほうが、分かりやすいと思ひますが。

「前田生涯学習課長」 過去の数値は拾い出しを行えば出来ないこともないのですが、ただ難しいのは、10年前と言ひますと合併があったり、5年前でしたら合併後になるのですが、制度自体が変わっていたりするものですから、基準が統一出来ないという問題がございします。

より分かりやすくということで、本当はここに掲げた目標指標の5年前の数値をお

示しすることも、一つの方法であると思うのですが、事業によっては数値の洗い出しが困難であったり、あるいは、制度自体が変更になっていたりするため、比較が出来ない数値もございますので、現在の表記になっているということでご理解いただければと思います。

「高本教育長」 戸荻委員が言われたように、将来の目標数値が妥当なものであるかどうかを示すには、過去の数値があると参考になるということは、確かに分かるご意見かと思えます。

その他にございますか。全体的なこととして、何かご意見がございましたらお願いします。

「林委員」 2ページからの内容ですが、学んだ事を地域づくりに生かしていくという趣旨で、一貫して記載されています。ただ、現在地域社会に求められているのは、一人ひとりが地域の中で自分の役割を自覚するという部分が大きいと思うのですが、その部分は書かれてないですね。

一人ひとりが、とにかく地域の中での役割を自覚する、そして地域づくりに生かしていくという視点について、私は是非記載して欲しいと思います。

今、地域の中で役割があることを嫌だと断る人が多いものですから、もっと地域の中で自分の役割を自覚し、学びを通してその思いを更に強めていくといったことが必要であるという気がしますが、いかがでしょうか。

「高本教育長」 林委員から問題提起をしていただきましたが、いかがでしょうか。

きっかけをつくって、そして学びで人がつくられ、更に地域をつくっていく。地域づくりに参加するということは、もちろん大事な事だと思いますが、その前提として、まず個々の一人ひとりの意識や思いといったところからスタートしたほうが良い、というのが林委員のご意見だと思いますが、他の委員の方々も、同様のご意見がございましたらお聞きします。

このような話題は、今回この推進計画案を策定していく過程では議題にはならなかったのでしょうか。

「前田生涯学習課長」 貴重なご意見をありがとうございます。やはり、アンケートを行った結果でも、林委員が言われるような社会の風潮が現れているという現実がございます。

その現状にどう上手に刷り合わせていくかというのが、現在の課題になっているということで、計画を策定していく過程の中でも、行政として何ができるのかを検討し、加味したつもりではございますが、その部分がなかなか前面に出てこなかった結果だと思います。

林委員のご発言の意を汲み取りまして、今後、市議会の市民文教委員会でのご意見ですとか、あるいはパブリックコメントの結果も踏まえ、検討の上、反映させることができたらと思っております。

「高本教育長」 ありがとうございます。繰り返しになりますが、今回、市民アンケ

ートから行いまして、市民の方々の80%以上が生涯学習は必要である、大事であると答えられているけれども、実際に学習されている方が少ないという結果が、豊川市の推進計画のスタートになっています。先ほど生涯学習課長から説明がございましたが、必要であると考えながらも始めることが出来ない方のきっかけづくりを、大事な部分として抑えておきたいという考えでございました。

アンケートについては、市の総合計画においても、2年ごとに実施している市民意識調査の結果を指標としていますが、生涯学習推進計画も計画期間の途中で、あらためてアンケートを実施する予定はありますか。

「前田生涯学習課長」 アンケートの単純集計結果につきましては、資料の巻末、66ページに記載されています。こういったアンケートは、過去には第2次計画を策定した10年前の平成18年度に実施しております。それ以前にも、改訂版を策定した5年前にも行っていますので、今後、アンケートを実施するのであれば5年後くらいを想定して検討したいと思います。

計画に基づいたアンケートを実施する以上は、事業の成果の確認という意味では、質問内容を毎回変える訳にはいきません。中には新項目で過去の結果が無いものもございますが、今回の計画の資料につきましては、同じ調査項目で10年前、15年前が比較できるようになっております。

「高本教育長」 ありがとうございます。先ほど愛護センターの相談件数について、相談の受け皿としての役割を果たすため、相談件数の増加を目指すという説明をいただきましたが、件数だけではなく、相談して良かったですとか、相談できる場所が出来て嬉しかったなど、内容についての利用者の声というのは、アンケートでないと聞くことが難しいのではないかと思いますので、発言させていただきました。

その他にはありませんか。なければ採決を行います。本案は原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

異議なしと認め、日程第3、その他報告「第3次豊川市生涯学習推進計画(案)の策定について」は報告のとおり承認されました。

本日の会議に付議されました案件は以上ですので、これで本委員会を閉会します。ありがとうございました。

(午前10時52分 閉会)